

# 安定的な利用を目指したアサリ資源回復技術の研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成28～30年度)

担当：水産技術研究所 浜名湖分場 小泉康二

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖のアサリ漁獲量は、近年、不安定な状況にあり、資源の安定的な利用に対する漁業者の思いは強くなっています。また、平成28、29年は資源の減少を背景に、観光渡船潮干狩りが中止になるなど地域経済へ大きな影響を与えました。
- ・ 資源減少要因の一つとして、クロダイなどによる食害が漁業者から報告されており、その対策が急務となっています。
- ・ 漁業者は、アサリ資源を増やすため、天然採苗などの新たな取組を開始しましたが、採苗器が埋没するなど、管理負担が大きいことなどが課題となっています。また、湖奥部で大量に発生した稚貝を有効利用するため、禁漁区などへ移植する取組が行われていますが、近年は十分な稚貝の発生が確認されていないことから、その実態を把握し、対応を検討する必要があります。
- ・ 本研究では、アサリ資源の回復を目的に、食害対策や効率の良い天然採苗技術を開発し、アサリ資源の安定的な利用を目指します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成28年度の成果)

- ・ 水中カメラにより、多数のクロダイがアサリを捕食する様子が観察され、食害は主にクロダイによることが確認できました(図1)。
- ・ 湖底を網で覆う被覆網を用いることで、クロダイからの食害防除の効果が確認されました。



図1 砂中のアサリを捕食するクロダイ

(平成29年度の成果)

- ・ 広範囲の漁場を効率的に防除するため、囲い網を用いたところ、被覆網と同等の防除効果が確認されました(図2)。
- ・ 湖奥部の佐久米では、殻長10mm以下の稚貝の発生が多く確認されました(図3)。採苗器を設置したところ、多くの稚貝が得られ、かつ成長速度も非常に良好で、効率的な移植用稚貝の確保が可能と考えられました。

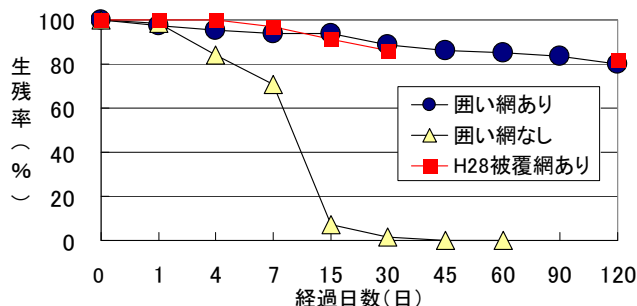


図2 囲い網による食害防除効果

## 【期待される効果】

- ・ 食害対策、埋没しない新採苗器の導入及び稚貝発生の実態に合わせた移植を行うことにより、資源の安定的な利用に繋がります。
- ・ 安定的な漁業経営や、地域経済へ寄与することが期待されます。

## 【今後の計画】

- ・ 管理負担の少ない採苗器を開発し、その効果を確認します。
- ・ 採苗適地を明らかにし、効率的な稚貝確保の手法を開発します。

(作成 平成30年4月)

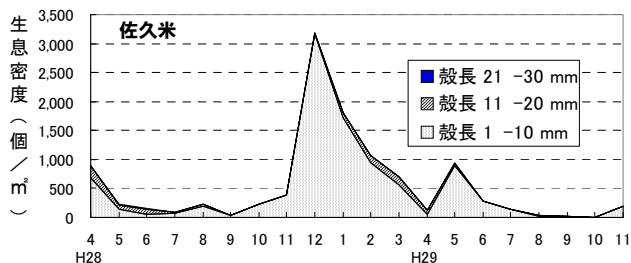


図3 稚貝生息密度の月別推移